

## 瀬戸内市こどもひろばサポート

事業主体	名称：社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会 住所：岡山県瀬戸内市邑久町山田庄862-1
事業実施場所	瀬戸内市総合福祉センター 2階大会議室 瀬戸内市邑久スポーツ公園（冒険の森、芝グラウンド）

### ～事業を始めるにあたって～

（地域の現状・課題・目標など）

#### 事業①ネットワークづくり事業

（目的）子どもへの支援を行っている支援団体や子どもの支援に興味がある団体との交流会を開催することで、他機関との交流やつながりができること。

（概要・方法）子どもの支援を行っている団体や子どもの支援に興味がある団体と交流をすることで繋がりや関係性の構築を行う。方法としては、支援機関の参集を促し、意見交換を行う。

#### 事業②外遊び促進事業

##### ■ 1回目 落ち葉であそぼう（プレーカーがやって来る）

（目的）岡山市と瀬戸内市で子育て世帯に対して外遊びの企画を実施しているNPO法人まんなかと連携することで、より様々な方に参加してもらうこと。企画内容も充実が図られること。

（概要・方法）落ち葉で遊ぶ企画内容にし、落ち葉がよくある邑久スポーツ公園冒険の森にて開催を行う。NPO法人まんなかに落ち葉を活用した製作を依頼し、こどもひろばも落ち葉を中心とした自然遊びを実施する。

##### ■ 2回目 親子でスマイルボール遊び

（目的）活動エリアや周知範囲が異なる為、より多くの方に参加してもらうこと。親子が一緒に楽しむボール遊びのイベントを実施しているファジアーノ岡山と連携することで、親子同士がよりリフレッシュして楽しめること。

（概要・方法）親子が一緒にボール遊びが出来るように、邑久スポーツ公園芝グラウンドで開催を行う。ファジアーノ岡山を中心にボール遊びを実施してもらう。こどもひろばも一緒に幼い子どもを対象にボール遊びや邑久高校生が作成した手作りおもちゃで遊ぶコーナーを実施する。

##### ■ 3回目 セミナーの開催

（目的）子育てや子育て家庭を地域で支える社会づくりができるように、子ども支援や子育て支援に興味がある方や現在も支援を行っている方に参加してもらうこと。その中で新たな人材を育成すること。

（概要・方法）子育てや子育て家庭を地域で支える社会づくりができるように有識者に講師として講演を依頼し、あわせて支援を行っている団体の実践発表を行う。

### ～事業実施内容～

#### 事業①ネットワークづくり事業

<第1回>

①事業名 交流会の開催

- ②参加人数 全体14名（保護者5名、地元企業4名、子育て支援団体3名、実習生2名）
- ③日 時 令和7年8月19日（火）13:30～14:30
- ④場 所 瀬戸内市総合福祉センター 2階大会議室
- ⑤内 容 関係機関の担当者や保護者などの参加者と参加して良かったイベント内容、あったら良いと思うイベント、子育て中の悩みや困りごと、瀬戸内市にあったら良いと思う支援について話し合いを実施した。関係機関の担当者からは、活動内容や今後の活動の未来について意見が寄せられた。



## ⑥活動の成果等

それぞれの参加機関で行っている活動内容が共有され、今後の共同イベント開催へのきっかけ作りができ、お互いに関係を構築することができた。

保護者からは様々な良かったイベントやあったら良いイベントの意見があり、今後の活動のアイデアを共有することができた。

## <第2回>

- ①事業名 交流会の開催
- ②参加人数 全体32名（保護者8名、子ども2名、行政関係5名、子育て支援団体15名、地域コミュニティ関係2名）
- ③日 時 令和8年2月1日（日）12:10～12:50
- ④場 所 瀬戸内市総合福祉センター
- ⑤内 容 グループに分かれ、瀬戸内市全域の地図に昔遊んだ内容や場所、現在遊んでいる内容や場所、これから残したい場所や遊びで活用したい場所を示した。その中で瀬戸内市内の遊び資源を再確認し、今後の遊び場の展望や地域として残って欲しい場所や取り組みを共有した。



## ⑥活動の成果等

関係性を構築し新たな資源に気づくことができた。市外の方からも市外での取り組みを示すことで瀬戸内市でもできる可能性を模索できた。今後、参加者と市内の各支援団体の活動の活性化を図るためのアフター会を実施する予定である。

### 事業②子どもの外遊び促進事業

#### <第1回>

- ①事業名 落ち葉であそぼう（プレーカーがやって来る）
- ②参加人数 全体17名（保護者7名、子ども10名）
- ③日時 令和7年11月6日（木）10:00～12:00（こどもひろばとしては12:00まで開催。NPO法人まんなかは単独でその後もイベントを継続。）
- ④場所 邑久スポーツ公園冒険の森
- ⑤内容 NPO法人まんなかに会場に落ちている落ち葉を利用した製作を実施してもらった。こどもひろばも落ち葉をダンボールに集めて「落ち葉のプール」を作成した。他にも虫取りやどんぐり転がしなど自然を活用した遊びを実施した。



## ⑥活動の成果等

お互いの活動で参加者が異なる為、より様々な方に参加してもらうことが出来た。活動詳細や今後のイベント情報を広報でき、活動を知ってもらうことが出来た。

多くの方が自然の中で走り回り、遊びを体験出来て親子でリフレッシュしてゆっくりする時間になった。

#### <第2回>

- ①事業名 親子でスマイルボール遊び
- ②参加人数 全体20名（保護者8名、子ども9名、邑久高校生3名）
- ③日時 令和7年11月16日（日）12:00～14:00
- ④場所 邑久スポーツ公園芝グラウンド
- ⑤内容 ファジアーノ岡山を中心に会場設営を行った。時間を区切り親子で楽しむようにボールを取り合ったり一緒にシュートしたりと様々な体験を実施してもらった。  
こどもひろばは、ファジアーノ岡山が実施していないタイミングやボール遊びに参加され

ない子どもと外遊びを実施した。邑久高校生が作成した手作りおもちゃや柔らかいボールを活用した。



#### ⑥活動の成果等

親子が同じ内容の遊びで楽しむ機会を実施していただき、親子がリフレッシュし、普段の遊びでは得られない体験ができた。こどもひろばも一緒に活動をしたことで、子どもたちが飽きることなく楽しむことが出来ていた。様々な方に参加してもらい、今後のイベント企画のニーズを聞き取ることも出来た。

#### <第3回>

- ①事業名 セミナーの開催
- ②参加人数 全体47名（保護者9名、子ども10名、行政関係6名、地元企業2名、子育て支援団体18名、地域コミュニティ関係2名）
- ③日時 令和8年2月1日（日）10:00～12:10
- ④場所 瀬戸内市総合福祉センター 2階大会議室
- ⑤内容 子育てや子育て家庭を地域で支える社会づくりができるように「外遊びが育む“しあわせ力”とは～あそびあふれるまちへ～」というテーマで有識者に講師として講演を依頼し、あわせて支援を行っている団体の実践発表を行った。セミナーを通しての感想、外遊びに良い場所、今後の活動への協力意向に関するアンケート調査を実施した。



#### ⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

外遊びがもたらす未来について講演をしていただき、外遊びの重要性や瀬戸内市としての目指す姿の共有ができ、未来に繋がるよい機会になった。

実践報告では、今年度関わりのあった団体から取り組みの報告を受けた。地域で頑張っている団体の活動を共有し、今後、コラボでイベントを開催するなど関係構築のきっかけにもなった。

～プラスアルファ事業について～

○協働実施推進事業

<協働実施した団体>

- ・NPO法人まんなか、一般社団法人ファジアーノ岡山

<どのような形で協働したか（それぞれの団体の役割等）>

- ・外遊びの協働イベントを企画し、イベント運営を行った。
- ・NPO法人まんなかとのイベントでは、11月6日に10:00～12:00まで開催した。（こどもひろばとしては12:00まで開催。NPO法人まんなかは単独でその後もイベントを継続。）落ち葉で遊ぶというテーマのもとでNPO法人まんなかは落ち葉で遊び道具の製作を行った。こどもひろばとして、落ち葉のプールや虫取り、どんぐり転がしといった自然を活用した遊びを実施した。その他、受付や会場設営なども協働で行った。
- ・ファジアーノ岡山とのイベントでは、11月16日に12:00～14:00まで開催した。親子でボール遊びというテーマで親子でふれあいながらボール遊びを展開した。こどもひろばとしては、ファジアーノ岡山が実施していないタイミングやボール遊びに参加されない子どもと外遊びを実施した。邑久高校生が作成した手作りおもちゃや柔らかいボールを活用した。

<協働することで得られた効果>

- ・どちらのイベントも岡山市での活動を基本にしている団体とのコラボイベントであったということから、瀬戸内市での活動を基本にしているこどもひろばの活動を周知し、外遊びの大切さや楽しさを共有できる効果があったと考える。
- ・遊びのメニューも異なるため、互いの取り組みがつながり合うことで単独開催よりも実施内容に幅ができた。

<協働実施をすることで得られた団体のメリット>

- ・ネットワークづくりができた為、その他イベントでの参加者増加につながった。
- ・こどもひろばでできていなかった遊び内容の企画ができてこれまでにない開催を行うことができた。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

今までは、地域でそれぞれの団体が子どもの居場所や遊びについて単独で実施されており、団体同士で連携を取る機会が少なかったが、交流会を実施したり、セミナーを開催することで団体同士の横のつながりが構築できた。アンケートでは、他団体の動きを知ることができてよかったという感想があった。

関係が構築されることで新たなイベントの開催に繋がるきっかけになった。

実際に子育て中の保護者が求めているイベント内容の案を聞くことができ、今後ニーズの高いイベントを開催するきっかけになった。

協働で別団体とイベントを開催することによって、お互いの参加者により子育て支援を幅広く知ってもらうことができた。単独ではできることも限られるが、複数の機関が連携することで実施内容の拡充ができた。

### ○今後の課題・展開

子どもの居場所を行う団体は増加しているが、地域で外遊びを安心して行うことができるようにサポートしている団体はあまり多くない。こどもひろばサポートだけではなく、自治会やコミュニティーなど地域が主体となって様々なところで外遊びの機会が広まっていく必要がある。

今後も様々な団体や地域の方と情報共有を行い、新たなイベントを計画していきたい。こどもひろば市民セミナーに参加された方とアフター会を予定している。アフター会では、市内の各支援団体の活動の活性化を図りたい。

### ○まとめ

今回の事業を活用することで、これまでできていなかった他団体との繋がりを構築する交流会やセミナーを実施することができた。

関係構築した団体と今後もイベントを一緒に開催するきっかけを得ることができた。

協働実施推進事業でも関わりのある団体と一緒に実施することで、より幅のある開催内容や周知をすることができ、より多くの方に外遊びの体験をしてもらうことができた。

子どもだけでなく、多世代が交流し親もリフレッシュできる機会は重要になって来ると思うので、今後は地域主体での開催も増やし、様々な方が参加して楽しむことができる場面として、自然の中での遊びや子どもの居場所などの実施をサポートしていきたい。